

## 「正倉院宝物を受け継ぐ—明治天皇に始まる宝物模造の歴史」展

明治神宮ミュージアム（原宿・明治神宮境内） 23. 12. 23～24. 02. 25

本展の展示は、正倉院宝物の「再現模造」で、1300年が経った宝物の実物は、毎年秋に「奈良国立博物館」で開催の「正倉院展」で公開されている。

宝物の保存と地続きのある「再現模造」を通じて、聖武天皇や光明皇后が見た“色”、聞いた“音色”を説明なしでも想像することができる催事である。



《模造 螺鈿紫檀五弦琵琶（らでんしたんごげんびわ）》 全長108.1cm 左  
原品は世界に唯一の遺例で、その希少性と装飾の華麗さから正倉院宝物を代表する一品である。この五弦琵琶は、構造、単なるレプリカではなく材料から工法まで製作当時と同じになるように研究がされ再現されたものである。

五弦琵琶はインドが起源といわれ、頭部が折れ曲がらない直頸（ちよっけい）形式が特徴で、撥（ばち）の当たる面や背面には、きらびやかな螺鈿で人物や宝相華文（ほうそうげもん）が表わされていて、原品は世界で唯一現存の伍弦の琵琶（現在は四弦）で、象牙を紅色に染めた撥のように再現されている。

《紅牙撥總撥（うげばちるのばち）》 長さ20cm 材質：象牙 中  
螺鈿紫檀琵琶に付属する撥で、紅染された象牙の表面に毛彫りで、翼のある馬、鳳凰、山水、鳥などが描かれ、楽器の付属品といえども優美である。

《紫地鳳形錦御軾（むらさきじほう おうがたにしきのおんしょく）》 右  
高さ20cm、長さ79cm 幅25cmの大きい枕は、今でいうクッションで、聖武天皇の持ち物に相応しく、くつろぐときに、もたれかかったり、枕にしたのかもしれない。真菰（まこも）様の植物を編んだむしろのようなものを固く束ねて、表にはとても豪華な紫地鳳形綿が貼ってある。

参考書籍 西川明彦（宮内庁正倉院事務所長）《正倉院のしごと》中公新書